

1 単元名 プロジェクトK大賞

2 単元について

単元 目標	○友達の取り組みや作品の優れた点をとらえ、その魅力を具体的に示しながら推薦する。 ○プロジェクトKの経験や学びを振り返り、今後の学習に生かそうとする。
----------	--

ことばの力は、知識・技能の獲得によって一朝一夕に伸びるという性質のものではない。日々、ことばへの意識や感度を高め、少しずつ積み上げることで、徐々に体得できてゆくものである。走ることに例えるならば、1日だけ5時間走るよりも、毎日10分1ヵ月走り続けるほうが走力が伸びるのは明らかだが、ことばの力も同様であろう。まさに「継続は力なり」である。

そうした経験を6年生の子どもたちにも積んでほしいと願い、4月から「プロジェクトK」と称したことばをテーマにした家庭学習を続けてきている。プロジェクトKの「K」は、国語・ことば、興味・関心、計画、継続、工夫、記録、こだわり…等の頭文字。ことわざ・慣用句、百人一首、新聞スクラップ、名言集、俳句作り、一言日記、読書記録、アンソロジー作り、物語創作…等々、個々が思い思いに決めたテーマに継続して取り組んでいる。日々は、およそ右記の約束のもと進めており、月に1度ノートを持参し、友達と交換して見合ったり振り返ったりして、それぞれに充実を図りながら進めてきた。

【プロジェクトK 進め方の約束】
○ことばに関する学習テーマとめあてを自分で決める。
○家庭学習として、週2回以上、継続して取り組む。
○日付を入れて、取り組みについて記録し、書き残す。
○オリジナルの取り組みとなるよう工夫して進める。

卒業も近づいてきた今、1年間の取り組みを振り返り、それぞれの学びや取り組みの良さを自分事として相互評価し合う場をつくりたいと考え、学級の「プロジェクトK大賞」として、代表作品を選出し、他クラスに紹介し合う活動を計画した。日頃の自己評価での観点、「継続的な積み上げ」「ノートの充実(詳しさ・丁寧さ)」「オリジナルとなる工夫(自分らしさ)」を生かし、互いの作品だけでなく、取り組みの背景や苦勞にも思い至るようにしたい。

本時は、審査員による代表選考会のようなイメージで、候補作品を推薦し合い、その魅力のプレゼンテーションと話し合いにより、それぞれの取り組みの成果をとらえ、発信できる場としたい。

3 学習指導計画(6時間目/全8時間)

- (1) 「プロジェクトK大賞」の趣旨をとらえ、具体的な進め方を考える。 (1時間)
- (2) お互いのプロジェクトKのノートを読み合い、推薦したい候補作を選定する。 (2時間)
- (3) 候補作を推薦するためのプレゼンテーションの準備をする。 (2時間)
- (4) 各賞の候補作を推薦し、話し合って選考する。 (2時間・本時1/2)
- (5) 「プロジェクトK大賞」発表会で、各賞に選ばれた作品を学年に紹介する。 (1時間)

4 本時の学習について

(1) 本時のねらい

候補作を推薦するプレゼンテーションを聴き合い、それぞれの魅力をとらえて、受賞にふさわしい作品を選ぶ話し合いを建設的に行う。

(2) 予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留意点
1 本時で取り上げる賞を確認する。	○部門賞の内容は事前に話し合っておく。
2 候補作品の魅力をプレゼンテーションする。	○作品の紹介だけでなく、作品や取り組みの経緯や背景を含めた説得力のある推薦を促す。
3 賞にふさわしい作品を決めるため、それぞれの魅力について話し合う。	○必要に応じて、部門賞の在り方も検討する。
4 学習感想を書く。	○候補作と話し合いで得た学びを記述させたい。

□授業後の話し合いで話題にしたいこと

- ・候補作の選考のための話し合いを通して、他者の作品の魅力を自分事としとらえられていたか。